

この間（7月～12月）のできごと

7月 新潟・福島豪雨災害および福井豪雨災害への対応

国土地理院は、平成16年7月の「新潟・福島豪雨」および「福井豪雨」の災害に対して、政府現地調査団に参加した。また、独自に行った現地調査や、航空機「くにかぜ」（運航は海上自衛隊）による空中写真撮影などを実施して、被災状況の把握に努めた。

7月1日 新設電子基準点の測量成果ならびに既設電子基準点の標高成果の公表

国土地理院は、新設電子基準点253点の成果の算出および既設電子基準点947点の標高成果の再計算を行い、これらの成果等を7月1日から公表した。既設の電子基準点付属標の内267点については、近くの水準点からの水準測量による成果に改訂され、水準測量の基準としても利用することが可能となった。

7月1～12日 マレーシア コタキナバルで絶対重力測定を実施

国土地理院は、測地部物理測地課 平岡重力係長と檜山係員をマレーシアに派遣し、絶対重力測定を行った。この測定は、京都大学大学院理学研究科と共同で実施している「東アジア絶対重力基準網確立に関する共同研究（平成14～17年度）」の一環として、東アジア地域における高精度な重力基準網の確立を目的としている。ボルネオ島北西部のサバ州コタキナバルにあるマレーシア・サバ大学において、国土地理院所有の絶対重力計FG5により測定を行った。

7月6日 沿岸海域測量業務連絡会議を開催

海上保安庁海洋情報部において、第49回「沿岸海域測量業務連絡会議」が開催され、国土地理院から丸山地理調査部長ほか3名、海洋情報部から土出技術・国際課長ほか4名が出席した。会議では、平成17年度に計画している沿岸海域測量事業について「沿岸海域基礎調査」（国土地理院）、「沿岸海域海底活断層調査」（海洋情報部）の実施地区などの概要説明が行われた。

7月15日 国土地理院研究開発五箇年計画を策定

国土地理院は、「国土地理院研究開発五箇年計画」を策定した。本計画では、平成16年度から平成20年度までの5年間に国土地理院が行う研究開発の方向性を示している。

「電子国土の構築支援」「科学の進展への寄与」「研究開発結果の社会への還元」を研究開発の使命と位置付け、以下の4つを研究開発の基本的課題として推進するとしている。

1. 測量事業・行政施策を支援する研究開発
2. 近未来の測量技術を進展させる研究開発
3. 防災・環境保全に貢献する研究開発
4. 地球と国土に関する科学の発展に寄与する研究開発

また、これらの研究開発の推進は、「知的基盤の整備・活用」「産学官の関係機関との連携の強化」「国際協力の推進」等の方策をもってあたるとしている。

7月21日 地図に関する勉強会と見学会を実施

国土地理院では、「国土交通Day（7月16日）」の一環として、茨城県土浦市・牛久市・つくば市・新治村・伊奈町・谷和原村の公私立小中学校の先生15名を対象に「地図と測量の科学館」で地図に関する勉強会と見学会を実施した。

7月26日～10月7日 JICA研修「地球地図作成技術」コースを実施

JICA研修「地球地図作成技術：地球地図整備に貢献することを目指した地理情報システム」コースが実施され、カンボジアをはじめとする8カ国9名の研修員が受講した。

7月27日 海岸昇降検知センター総会を開催

関東地方測量部において、第39回海岸昇降検知センター総会が開催された。

総会では、渡邊国土地理院長の挨拶に続き、気象庁、海上保安庁海洋情報部、国土交通省港湾局および国土地理院の同センター関連業務について、平成15年度事業実施報告と平成16年度事業実施計画の説明が行われた。また事務局より同センターの平成15年度事業実施報告と平成16年度事業実施計画について説明・提案が行われ、審議・承認された。

8月 三等三角点「劔岳」を設置し標高を2,999mと観測

国土地理院は、劔岳（富山県中新川郡上市町・立山町）に「劔岳測量100周年記念事業」の一環として、三等三角点「劔岳」を設置し、標高は2,997.1m、緯度は北緯 36° 37′ 24″、経度は東経 137° 37′ 02″であることを公表した。

劔岳の最高地点は、新たに設置した三角点より南西方向へ約13m離れた、祠の西側に突出した岩上であることが分かり、水準測量の結果、三角点より1.5m高いことから最高地点の標高は2,999mとなった。

8月1日～23日 ケニアにおける第三国研修に在外技術研修講師を派遣

国土地理院は、「アフリカ測地系構築セミナー」および「GISセミナー」（於：ケニア共和国ケニア測量地図学院、主催：JICA（独立行政法人国際協力機構））に、在外技術研修講師として土井弘充測地基準課課長補佐ほか3名を派遣した。

今回は、アフリカの11カ国から30名の参加があり、「測地成果2000」「日本のジオイド2000」の構築についての事例紹介、GPS測量、GISの応用等に関する講義や実習の指導を行った。

8月3日～9月26日 企画展「地図で見る茨城の観光」を開催

「地図と測量の科学館」では、茨城県内の各市町村等で観光PRを目的に作成された「ガイドマップ」などを一堂に展示・紹介した企画展「地図で見る茨城の観光 伝えたい！見どころいっぱい私の街！」を開催し、県内・外から多数（1日平均250人）来場した。

8月4～6日 「中学生ミニ博士コース」を実施

茨城県教育委員会主催による、科学大好き児童生徒育成事業「中学生ミニ博士コース」が、各研究機関等を会場として実施された。

国土地理院では、「地図ができるまで」をテーマとし、5名の生徒を受け入れ、測量と地図作成に関する講義や実習体験を行った。

8月18日 インターネットで四国地方の空中写真閲覧サービスを開始

国土地理院は、インターネットで四国地方の空中写真閲覧サービスを開始した。今回閲覧を開始した四国地方のうち、高松市は、米軍が昭和20年代に撮影した空中写真と、国土地理院が平成に撮影した空中写真の2時期を閲覧することができ、それ以外の地域については、平成8年から12年までに撮影した空中写真を閲覧することができる。

8月21～25日 「地図展2004まつやま」を実施

「地図展2004まつやま」が松山市内の「松山三越店」において開催された。

松山市の1/1,000空中写真、「しまなみ海道」の空中写真などを紹介した。夏休み中ということもあり、親子連れが多く、期間中8,215名の入場者があった。

8月23日 第158回地震予知連絡会を開催

国土地理院関東地方測量部において第158回地震予知連絡会を開催した。

会議では、全国の地震活動、地殻変動について各観測研究機関や大学からの報告があり、それらに基づく討議を行った。特に東海地域については、水準測量の結果、森町～掛川～御前崎間では前回の観測結果と比較して御前崎側で隆起が見られるが、前々回の観測結果との比較では特に大きな変化は無いことが報告された。

8月24日 第2回日中測量・地図協力会議を開催

国土地理院において、第2回日中測量・地図協力会議が開催された。日本から参事官ほか5名、中国から国家測絵局の李（リ） 副局长ほか5名が出席した。

会議では、重点事業、予算制度、基本測量成果の提供、電子国土、カーナビ事情についての紹介や意見交換が行われた。

8月24～26日 2004年「測地学サマースクール」を開催

国土地理院において、「測地学サマースクール」（主催：日本測地学会）が開催され、学生19名及び社会人1名の合計20名が参加した。「ハイテクで地球を測る」をテーマにして、地球、VLBI、海底地殻変動、干渉SARについての講義やGPS観測、重力測定、VLBI観測・相関処理の実習を行った。

8月24～27日・9月1日 平成16年国土地理院防災訓練を実施

国土地理院では、「防災の日」を中心に、「東海地震を想定した予知対応型」の防災訓練を実施した。

8月31日 平成17年度予算概算要求を提出

国土交通省は、平成17年度予算の概算要求を財務省に提出した。このうち国土地理院の要求額は、114億円。

国土地理院では、高度情報化社会における位置情報基盤・地理情報基盤の構築に向けて、いつでも、どこでも、だれでも位置情報・地理情報を利活用できる社会の実現を目指し、「第六次基本測量長期計画」の目標達成に必要な経費を要求した。

9月 TIGA試験的プロジェクトに参加

国土地理院では、TIGA試験的プロジェクトに貢献するため国内38ヶ所の国土地理院および気象庁の験潮場（検潮所）に設置したGPS観測局を試験的プロジェクトに登録し、GPS観測データおよび験潮データの提供を開始した。

9月6日 国際地図学協会会長が来院

ミラン・コネチニ国際地図学協会会長が国土地理院を訪問し、渡邊茂樹国土地理院長および丸山弘通地理調査部長（地球地図国際運営委員会事務局長）らと会談した。

9月7～13日 アジア太平洋GIS基盤常置委員会理事会およびワークショップに参加

アジア太平洋GIS基盤常置委員会（PCGIAP）理事会およびワークショップが中国成都市・拉薩市において開催され、日本からはPCGIAPの事務局長である国土地理院矢口参事官他3名が出席した。

9月16日 浅間山の火口を合成開口レーダにより観測

国土地理院は、約16年ぶりに噴火した浅間山の噴火状況を把握するため、航空機搭載型合成開口レーダ（航空機SAR）による観測を行った。

観測された画像を判読した結果、火口クレーター内で以前は窪地であった場所に直径200m程度の同心円状をなすパンケーキ状の隆起を確認することができた。

9月17日 第159回地震予知連絡会を開催

国土地理院関東地方測量部において第159回地震予知連絡会を開催した。

会議では、9月5日に紀伊半島南東沖で発生した地震（M6.9, M7.4）に関する報告、議論を行った。

地震の発震機構については、南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で広域に渉る地殻変動が観測され、三重県の志摩半島では南へ約5cmの変位が報告された。

9月18日 「伊豆アドベンチャーレース2004」に電子国土が活用される

アドベンチャーレースの様子を地図上に映し出して、各チームの様子をトラッキングするホームページを作成する試みが行われ、電子国土が利用された。

9月30日 インテリジェント基準点を試験的に設置

「自律的移動支援プロジェクト」のプレ実証実験開始式が、神戸市らんぷミュージアム前において開催され、実証実験の一環として設置されたインテリジェント基準点がお披露目された。

10月1日 1/5,000火山基本図「雲仙岳」を刊行

国土地理院は、雲仙岳全域について、1/5,000火山基本図「雲仙岳」（四六判、5面）を刊行した。

雲仙岳の火山基本図は、昭和59年と平成4年に作成したものがあがるが、平成2年から平成8年にかけての噴火活動により、山体等の地形が大きく変化し、それに伴い大規模な砂防ダムの建設、埋め立てなどの人工改変が行われ、噴火活動および人工改変工事などが一段落したので、今回改めて作成した。

10月5日～11月14日 企画展「第5回いばらき児童生徒地図作品展」を開催

「地図と測量の科学館」では、企画展「第5回いばらき児童生徒地図作品展」を開催した。

土浦市・つくば市・新治村の公立小中学校の授業で作成された地図や模型など約100点の展覧があった。

10月10日 「つくば科学フェスティバル2004」に参加

「つくば科学フェスティバル2004」が、「つくばカピオ」で開催され、国土地理院は、「地図と遊ぼう!!」をテーマに、測量や地図に関するパネル紹介や立体メガネを工作して立体視の体験、地図に関するクイズコーナーを出展し、約1,000人の子供達の参加があった。

10月13日～15日 UJNR地震調査専門部会第5回合同部会が開催される

UJNR（天然資源の開発利用に関する日米会議）地震調査専門部会第5回合同部会が、米国カリフォルニア州モンレー市において開催された。

日本からは地震調査観測研究に係る5機関20名（国土地理院から渡邊院長ほか4名）が参加した。

10月19日 防災講演会「宮城県沖地震の災害に備える」を開催

国土地理院東北地方測量部は、仙台市の宮城県民会館において防災講演会を開催し、357名の市民が聴講した。

10月23日 第160回地震予知連絡会（臨時会）を開催

10月23日に発生した平成16年（2004年）新潟県中越地震に関する観測・研究成果の報告と議論を行うために、国土地理院関東地方測量部において第160回地震予知連絡会（臨時会）を開催した。

10月26日 第99回火山噴火予知連絡会

気象庁において第99回火山噴火予知連絡会が開催され、国土地理院より村上地理地殻活動総括研究官ほか7名が出席した。今回の連絡会では、9月1日に噴火した浅間山と、依然として大量の火山ガス放出が続いている三宅島について、重点的な検討がなされた。

10月28～29日 デジタルマップフェア2004に参加

東京都立産業貿易センターにおいて、日本地図センター主催のデジタルマップフェア2004が開催され、国土地理院は、相談コーナーを設けた。各種地図についての相談と、今年度刊行予定の「数値地図500万日本とその周辺」のデモンストレーションを行った。

10月・11月 2004年新潟県中越地震に対して対応

国土地理院は、新潟県中越地震（発生：平成16年10月23日17時56分頃M6.8）に対する緊急対応として、18時30分に対策本部を設置し、GPS連続観測データ解析による地殻変動の監視、停電により通信機能が止まっていた震源周辺の電子基準点の観測データ手動回収、震源断層モデルの算出、GPS機動連続観測点の新設、災害土地条件と変動地形の現地調査と災害現況図の作成、被災地周辺の空中写真撮影、災害対策用地図（1:30,000, 1:50,000）の印刷と関係機関への配布等を実施した。

11月 「地図と測定の科学館」来館者増加

11月末現在で31,590人の来館者があり、昨年度（年間32,614人）を大幅に超えることが確実となった。統計によれば、休日開館により、一般来館者数が団体来館者数を大きく上回り、全体として増加している。

11月15日 第161回地震予知連絡会を開催

国土地理院関東地方測量部において第161回地震予知連絡会が開催され、全国の地震活動、地殻変動などに関する観測・研究成果の報告と議論を行った。

11月16日～17日 「平成16年国土交通省国土技術研究会」で優秀賞を受賞

「平成16年国土交通省国土技術研究会」が、11月16日・17日に品川TOCで行われ、地理調査部社会地理課の綿引多実子地誌係長の発表課題である「美しい国土の発見と再生に向けた総合地域誌の設計について」が優秀論文に選定された。

11月19日 平成16年（2004年）新潟県中越地震による電子基準点測量成果の改訂

国土地理院は、平成16年（2004年）新潟県中越地震により大きく変動した震源地周辺の電子基準点3点（守門、小千谷、新潟大和）の測量成果を地震後の観測データにより改訂し公開した。

11月21日～12月2日 グルジア国デジタル地図作成調査の事前調査団を派遣

国土地理院は、JICAの依頼に基づき「グルジア国デジタル地図作成調査」の事前調査団に、稲葉地理情報部長ほか1名をグルジア国に派遣した。約30,000km²の地理情報基盤データ（1/50,000地形図）の整備及びGISデータを作成し、それらの地理情報をグルジア国内で共有するためのシステム開発を行う。

11月23日～12月26日 「街歩きマップコンテスト優秀作品展」を開催

「地図と測定の科学館」では、「街歩きマップコンテスト優秀作品展」を開催した。「第4回街歩きマップコンテスト」（主催：日本観光協会ほか、後援：国土交通省ほか、協力：国土地理院）の応募作品の中から優秀で特徴的あるいはユニークな作品を紹介した。

11月24日 国土地理院研究評価委員会を開催

国土地理院は、平成16年度第2回国土地理院研究評価委員会を開催した。

研究評価委員会は、国土地理院が実施する研究開発課題について厳正な評価を行うため開催しているもので、委員は測地及び地理の専門家7名と有識者2名の計9名からなっている。委員会では、平成15年度に終了した研究課題（2課題）の事後評価を受けた。

11月28日 第46次南極地域観測隊（夏隊）出発

国土地理院は、第46次南極地域観測隊（夏隊）へ測地部森田技術専門職を派遣した。南極での観測期間は、約2ヶ月間あり、昭和基地のGPS連続観測点を基準とした高精度な精密測地網を構築するための既設基準点の改測及び新設点の設置や西オングル島への水準路線の新設、カラー写真図作成のための刺針作業などを行う。来年3月28日に帰国予定。

11月30日 電子基準点シンポジウムを開催

国土地理院は、大阪市において「電子基準点シンポジウム ～いつでも、どこでも、だれでも使える位置情報～」を開催した。このシンポジウムには、官公庁、学校、測量設計・建設コンサルタント、情報システム関係者など231名の来場者があった。

12月 国土地理院保有の特許等の情報を公開

国土地理院は、国土地理院が保有する特許権や商標権等の登録番号、名称等の情報を国土地理院ホームページで公開を始めた。

12月1日 第31回日韓測地・地図協力会議を開催

国土地理院において、第31回日韓測地・地図協力会議が開催され、日本からは議長として参事官が、代表団として企画部長ほか3名が出席した。また、韓国からの代表団として国土地理情報院の洪（ホン）測地課長ほか2名が出席した。

12月1日 インターネットで九州・沖縄地方の空中写真閲覧サービスを開始

国土地理院は、インターネットで九州・沖縄地方の空中写真閲覧サービスを開始した。今回閲覧を開始した九州・沖縄地方のうち、福岡市と那覇市は、米軍が昭和20年代に撮影した空中写真と、国土地理院が平成に撮影した空中写真の2時期を閲覧することができ、それ以外の地域については、平成8年から12年までに撮影した空中写真を閲覧することができる。

12月7日 国土交通省 新潟県中越地震情報集約マップを提供

国土地理院の「電子国土」を利用して、10月23日発生の新潟県中越地震に関する災害・復旧情報について、国土交通省内の各部局の連携のもと国土交通省ホームページにおいて公開を始めた。

12月13日・14日 GISデータの標準化実践セミナー

国土地理院は、「GISデータの標準化実践セミナーin 東京」を開催した。これは、これまで実施してきた「地理情報標準普及セミナー」を大きく衣替えしたもので、当日は、180名余りの受講者があった。

12月15日 浅間山火口底やや下降を確認

国土地理院は、平成16年12月15日に、噴火活動が継続している浅間山の火口内部を航空機搭載型合成開口レーダ（航空機SAR）により観測した。観測は9月16日、10月22日に引き続き3回目。観測の結果、火口底の北東部に20m程度盛り上がった部分があるが、全体としては10～15m程度低くなっており、形状は浅いすり鉢状となっていることが分かった。

12月16日 地球観測講演会を実施

「地図と測量の科学館」において、JAXA（宇宙航空研究開発機構）地球観測利用推進センターALOS利用研究グループ主任研究員の島田政信氏を招聘し、「JAXAにおける地球観測計画について」という講演が行われた。

12月20日 平成16年度補正予算案の決定

平成17年度予算編成に先立ち、平成16年度補正予算（第1号）の政府案が、平成16年12月20日の閣議で決定された。国土地理院については、新潟県中越地震の被災地域の復旧・復興を支援するための経費として約6億円が認められた。

12月24日 平成17年度政府予算案の決定

平成17年度政府予算案が平成16年12月24日の閣議で決定された。国土地理院の予算案総額は約110億円で、「第六次基本測量長期計画」の目標達成に必要な経費が認められた。

12月26日 火山噴火予知連絡会拡大幹事会開催

気象庁において火山噴火予知連絡会拡大幹事会が開催され、村上地理地殻活動総括研究官ほか5名が出席した。

2000年噴火以来全島避難が続いている三宅島で、平成17年2月の避難指示解除が検討されていることをうけて、同島の火山活動について、重点的な検討がなされた。

12月28日 新潟県中越地震に伴う緊急測量結果を公表

国土地理院は、新潟県中越地震の災害復旧事業等の測量に正確な基準を与えるため、三角点、水準点の緊急測量を実施し、三角点90点について改定成果を公表した。